学びのひろば旭 vol.11

旭市教育委員会

庶務課（☎55-5721）
学校教育課（☎55-5724）
生涯学習課（☎55-5727）
体育振興課（☎64-1132）

旭市の外国語活動・英語教育

平成23年度から、小学校5・6年生において「外国語活動」が必修化されました。外国語活動では「音声を中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めていくこと」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること」を目標にしています。

旭市では外国語指導助手（ＡＬＴ：Assistant Language Teacher）と、日本人英語教師（ＪＴＥ：Japanese Teacher of English）を派遣しています。ＡＬＴは全員で６人、普段は各中学校に勤務し、小学校の指導も担当します（二中のみ２人）。ＪＴＥは３人で、小学校を５校ずつ担当しています。

小学校では、６年生にはＡＬＴ、５年生にはＪＴＥを配置し、担任と共に授業を展開しています。例えば、リズムに乗って発音やイントネーションを学ぶチャンツや、デジタル教材を活用したゲーム、自己紹介や話作りなど、児童が楽しく外国語を学ぶことができるように指導しています。

中学校では、英語の授業の中で「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」ことが目標です。ＡＬＴは、それぞれの中学校で英語担当教諭と共に、授業を行っています。小学校との違いは、ＡＬＴが話し聞かせる英語量がとても多いという点です。英語担当教諭とＡＬＴの会話はもちろん、生徒たちとの会話も英語。ネイティブな発音をシャワーのように聞かせたり、親しく話したりすることで、コミュニケーション能力を養っています。ときには、母国の文化の紹介をして、生徒たちの世界に対する視野を大きく広げています。

「Do you like ～？」のゲーム

英語担当教諭とＡＬＴの対話を聴く生徒たち

小中学校共通していることは、ＡＬＴやＪＴＥは、児童生徒たちからとても人気があるということです。廊下を歩いていると「Hello」「See you」と、たくさんの児童生徒が外国語で声を掛ける姿が見られます。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、外国語活動・英語教育の充実が検討されています。将来、旭市の多くの児童生徒が、外国語で日本の文化を発信したり、国際交流に貢献したりする日が来るかもしれません。

校長リレーエッセイ ①

137年の歴史を刻む 矢指小学校

矢指小学校長
菅谷 充雅

矢指小は1877年（明治10年）２月10日、旧椎名内村と野中村が共同で福寿院を仮校舎に椎名内小学校として開設されました。入学児童数は男子42人、女子16人でした。その後、数度の変遷を経て、1954年（昭和29年）７月１日、市制施行に伴い旭市立矢指小学校となり、今年で137年目を迎えます。

137年という長い歴史の中で、本校は多くの困難に直面してきました。その中で最大の困難は、太平洋戦争中の1945年（昭和20年）３月９日から10日にかけてのアメリカ軍による矢指地区への空襲でした。この空襲により矢指小の校舎は全焼し、多くの犠牲も出ました。こうした中、矢指小では地域の寺院や倉庫を借りて、数か所に分かれて学習する分散教育を進めました。こうして、教具や教材もほとんどない中、教師や児童は地域の支援を受けて、教育活動を続けることができました。

現在の校舎は2011年（平成23年）11月に竣工し、市内では一番新しい校舎です。校舎は平屋でバリアフリー、各教室は廊下側の壁を取り払いオープンスペースにすることもでき明るく開放的です。校庭も広く施設も充実しています。児童数は162人で「健康で豊かな心と自ら学ぶ意欲を持った実践力のある児童の育成」を教育目標に掲げて、日々教育活動に取り組んでいます。これからも長い伝統と地域の思いを受け止めて「全ての児童が主人公」となり「全ての児童が輝く学校」を目指していきます。